

発行所

BSサミット事業協同組合 広報委員会

〒104-0031 東京都中央区京橋3-9-4 新京橋ビル3F TEL:03-3538-2900

www.bs-summit.jp

石井・藤野両副理事長が「国際自動車修理協会 (AIRC)」の国際会議に参加 併せてドイツ・ベルギーの自動車アフターマーケットを視察

AIRCとは

AIRCは「世界中の自動車修理業者と架装業者の利益を促進する」をスローガンに掲げ1970年に結成された世界的な連合体であり、

- 自動車修理および架装業界の未来を確実にするために英知を集結させる
- 自動車修理と架装産業の国際的な推進
- 国際的に経済的および政治的口ピ活動を行う
- 国際的な知識の交流や協業の促進

を活動目的に掲げ、精力的な活動を行っている。

加盟できるのは1カ国につき1団体と規定されており、ドイツのZKF (車体車両技術中央連合) をはじめ、オーストリア・ベルギー・クロアチア・デンマーク・イギリス・アイスランド・アイルランド・イタリア・ルクセンブルク・オランダ・南チロル・スウェーデン・スロバキア・スイス、そして日本の16カ国の団体が加盟。

2021年3月にBSサミット事業協同組合が日本の钣金塗装団体として唯一加盟した、欧州各国の有力な钣金塗装団体で構成される「国際車体修理業者協会 (Association Internationale des Re Parateurs en Carrosserie 通称:AIRC)」の総会が、9月22日にベルギーのブリュッセルにて開催されました。BSサミットからは、石井副理事長、藤野副理事長の2名が参加し、日本における車体整備事業の現状報告及び参加各国の近況について情報収集を行いました。また総会の前後には、ドイツやベルギーのディーラーや車体整備工場、サービスステーションなどの視察も行いました。

今回の視察を経て石井副理事長は「電動化に関する課題はまだまだ大きいと感じた。特に車体整備を行う事業者にとっては感電や火災など大きな危険を伴うので慎重になる必要がある。日本よりEV普及率の高い欧州においても、まだまだ知見が足りない状態だ。特にアジアの新興EVメーカーの車体が衝撃に対してどのような思想で作られているのかは注意が必要だ」と話します。

また、藤野副理事長は「視察で月間600台規模の車体整備工場を見てきたが、日本においても今後は設備の整った大きな工場に集約されていくのだからと感じた。また各国が頭を悩ませる若者の人材難に関しては、給与だけでなく作業環境や休日など総合的に考えていく必要があるだろう」と自身の見解を述べました。

BSサミットは「モビリティサービスの最前線を進む業界団体として、あらゆるモビリティに対応できる唯一無二の組織を目指しており、そのためには来るべきEV時代を見据えた活動は必須であり、電動化が進む市場背景や内包される問題点などをあらゆる角度から分析しております。今後日本を代表し海外の業界団体と情報交換を行うことで、自動車メーカーに求められる工場へと進化を遂げてまいります。

車体整備におけるEV事故車の取扱いと若者の雇用に課題を見出す



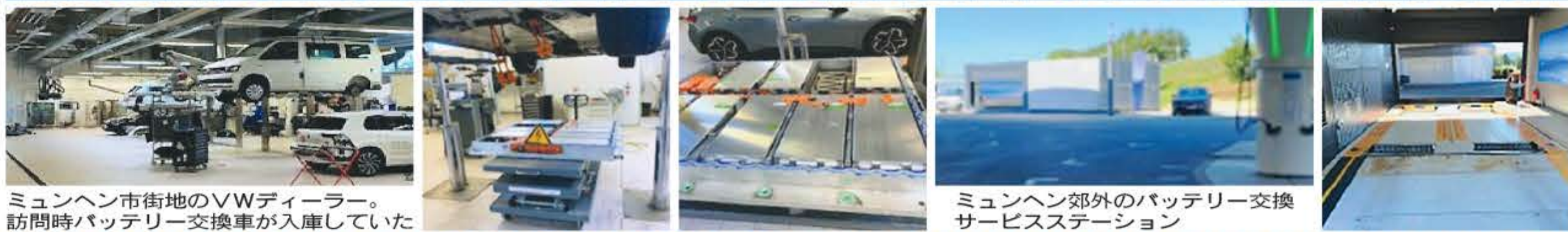
AIRC General Meeting 2023
Brussels, Belgium

各国が抱える課題

総会は、ドイツZKFのデトルフ・テレンス会長による歓迎と開催の挨拶から始まり、各種承認事項を経て、各国のメンバーからの近況報告 (一覽参照) へ移行しました。報告の中で興味深かったのが、多くの国で、若い労働者の雇用が、苦勞している点です。日本固有の問題ではなく世界的な傾向であることが分かりました。各国の対応策などを精査し共有することで、組合員工場の人材確保に役立てていくことを目指します。また欧州の中でもEV普及率には差があり北欧のデンマークなどが比較的に進んでいる印象を受けます。

今回の視察を経て石井副理事長は「電動化に関する課題はまだまだ大きいと感じた。特に車体整備を行う事業者にとっては感電や火災など大きな危険を伴うので慎重になる必要がある。日本よりEV普及率の高い欧州においても、まだまだ知見が足りない状態だ。特にアジアの新興EVメーカーの車体が衝撃に対してどのような思想で作られているのかは注意が必要だ」と話します。

また、藤野副理事長は「視察で月間600台規模の車体整備工場を見てきたが、日本においても今後は設備の整った大きな工場に集約されていくのだからと感じた。また各国が頭を悩ませる若者の人材難に関しては、給与だけでなく作業環境や休日など総合的に考えていく必要があるだろう」と自身の見解を述べました。



ミュンヘン市街地のVWディーラー。訪問時バッテリー交換車が入庫していた

ミュンヘン郊外のバッテリー交換サービスステーション

AIRC参加各国の近況

<ベルギー>

- 2019年より事故件数の減少が続いたが、2023年にコロナ前に戻る
 - B P工場の減少傾向が続く。国際的組織への売却が加速
 - 若い人の雇用 (労働者) が減少
 - 高電圧車両が増加傾向、研修・勉強会の強化取り組み
- ### <デンマーク>
- 2009年からEV車の販売が進み、現在では販売台数の60%を越える
 - インポーターが大きな工場を作っている
 - 若い人の雇用 (労働者) が減少
 - EVの事故車が工場入庫で修理待ち状態にて車両火災発生
 - 钣金と塗装工場が別々の会社が90%以上
 - A Z T (アリアンツの自動車研究所)、D A T (見積りシステム会社) と協力し

- て、交換した時のCO₂排出量がわかるように協体制を構築している
 - ADAC (日本で言うJAF) が事故車のチェックを行っている
- ### <アイスランド>
- 損保会社5社程の入庫で運営
 - 業界は伸びている
 - 若い人の雇用 (労働者) が減少 (車が好きな若者も入って来ない事が業界の問題)
- ### <スイス>
- 業界としてラベルを作成した (恐らく工場に対するマーク)
 - 交換より修理の方がCO₂削減に有効であるので促進している
 - 見習い工員の労働賃金を上げる活動が上手く行っていない
 - EV車の増加に伴う新しい技術の強化
- ### <イタリア>
- 車の販売は伸びている
 - 若い人の雇用 (労働者) が減少
- ### <オランダ>
- コロナ以降は事故入庫が増加傾向

- エコ対応のチェック
 - ガス、電気代の価格上昇で苦慮している
 - 複雑な修理に対する作業員の苦手意識
 - 労働基準法が変わり賃金上昇へ
- ### <クロアチア>
- コロナ以降はコスト費用が3倍になっている (電気、ガス代の高騰が影響)
- ### <スウェーデン>
- 二つの業界組織が今後は一つになって運営
 - EV、高電圧車に対し勉強会等を含めて対応していく
- ### <南チロル>
- 若い人の雇用 (労働者) が減少
- ### <オーストリア>
- 2年に一度、保険会社とB P工場が集まり色々と決め事を行っている
- ### <スロバキア>
- B P工場は登録制になっている (まだ登録して無いB P工場が2500~3000程あると思われる為に改善が必要)
 - 2005年以降の車が事故を起こしたらT

- UVやDEKRAに車両を確認して貰う必要がある (事故車検査制度)
 - 事故車検査制度は導入したばかりでまだ60%程度の普及率の為に改善が必要
 - B P工場の認定制度が重要になってきている。理解を深める為の説明会が必要不可欠
- ### <ドイツ>
- 環境対応を推し進める政府方針に対応、対抗している状況
 - 若者の働き方に対する考え方を理解するにはフレキシブルさが必要 (自由な時間や休暇を重視する必要がある)
 - CO₂削減の方針が、車両の維持へとシフトし部品不足も発生している
 - 賃金の改善が必要
 - 保険会社が塗装の材料代の増加を認めないが、政府がそれを後押ししている状況である
 - 認証や認定にお金が掛かるが、結果にプラスになっている (特に保険会社との仕事においては重要である)

ブロードリーフの3つのDXソリューション

電子帳簿保存法対応は、おまかせ!



電帳DXなら、作成した電子帳票が自動登録されるので、スムーズかつ簡単に電子保存をすることが可能になります。

電帳DXで業務をまるごと電子化



電帳DXの特長

- 保存・登録が簡単
- システム連携で正確に保存
- 検索・閲覧が明瞭

クラウド型钣金工場業務支援システム



ブロードリーフは新しいクラウドサービスを本格リリースしました。クラウドだからできる拡張性の高いアプリケーションは業務に革新をもたらします。

らくらく導入、かんたん操作。「日常業務の効率化」をサポート!



事業内容・事業規模にあった商品/パックを用意しています!



ホームページ作成はおまかせ!

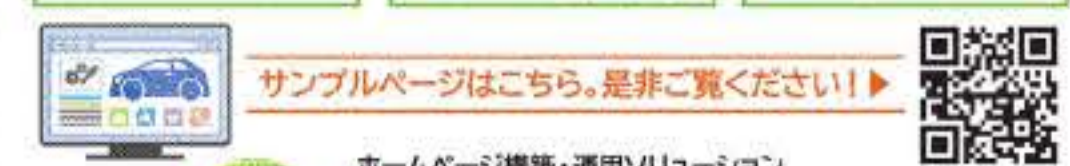
整備・钣金 工場専用! 初めての方でも簡単!

あんしん! カンタン! 便利!

ホームページの更新で、検索結果の順位&信頼性アップが目標です!

ここがスゴイ! 3つの特長

- 様々な使い方に対応! ホームページを営業の代りに活用!
- みだりな編集で済ませたい! 特別な知識はいりません! 直上でダイレクト編集!
- 更新サポート付き! 2カ月に1回の更新代行サービス付きで安心!



ホームページ構築・運用ソリューション
BL Homepage プレミアム

BSサミットが打ち出した新たな方針を 各地のブロック大会で再確認、組織の隅々まで浸透を目指す

BSサミット事業協同組合では、例年10月から11月にかけて全国各地で「ブロック大会」を開催しております。今号では11月中旬までに開催された、九州ブロック【10月18日(水)、福岡県福岡市「西鉄イン福岡」】、北海道ブロック【10月20日(金)、北海道札幌市「定山溪万世閣ホテルミリオーネ」】、東北ブロック【11月9日(木)、宮城県仙台市「仙台国際ホテル」】、関東甲信越ブロック【11月14日(火)、山梨県甲府市「山梨古名屋ホテル」】、首都圏ブロック【11月15日(水)、東京都新宿区「京王プラザホテル」】、中国ブロック【11月17日(金)、岡山県岡山市「岡山国際交流センター」】、中部ブロック【11月22日(水)、愛知県名古屋市「名古屋マリオットアソシアホテル」】、近畿ブロック【11月24日(金)、大阪府大阪市「シェラトン都ホテル大阪」】の様をお伝え致します。



多くのご来賓・ゲストに参加頂いた

この数年間は新型コロナウイルス感染症の影響で、ブロック大会の開催を見合わせた。組合員のみで執り行うこともございましたが、本年は全ブロックで開催し、また東北、中部、近畿ブロックにおきましては来賓・ゲストをお招きし開催致しました。

各地のブロック大会は、まず開会宣言が行われ、次にBSサミット基本宣言・組織理念・活動方針の唱和が行われます。その後、機部理事長もしくは担当副理事長からの挨拶へと続き、各ブロック担当理事から挨拶及び理事会の報告事項が組合員に伝えられました。機部理事長はBSサミットが推進するDMS(メーカー・ダイレクトメンテナンスソリューション)の話の中で「整備や修理に関して複数のメーカーから連携のお話を頂いているが、それはBSサミットが、入会基準や法令の遵守について毎年調査を行っており、高い作業品質や修理品質が維持できていることを評価頂いていると推察する」と、組合員工場各社の日頃の努力により生まれた話であると、労いの言葉を掛け

全国各地でブロック大会を開催

九州ブロック大会では、KPMGコンサルティング株式会社の森木光氏による講演「なぜ今eFuelが求められるのか?エンジン車とeFuelの可能性」が行われ、森木氏は講演で、様々なデータを用いた市場動向の分析、再生可能資源由来の電気エネルギーを用いて作られた合成燃料「eFuel」の説明、クルマのカーボンニュートラルに対する「eFuel」の可能性、同様に水素の可能性など、カーボンニュートラル時代におけるクルマの競争軸についてお話しされました。



各会場で趣向を凝らした勉強会・講演が企画された

ブロック大会では、各ブロックで勉強会や特別講演が企画されました。事業を継続していく上で学ぶべきことは沢山ありますので、各ブロックで特色があるものとなりました。

九州ブロック大会では、KPMGコンサルティング株式会社の森木光氏による講演「なぜ今eFuelが求められるのか?エンジン車とeFuelの可能性」が行われ、森木氏は講演で、様々なデータを用いた市場動向の分析、再生可能資源由来の電気エネルギーを用いて作られた合成燃料「eFuel」の説明、クルマのカーボンニュートラルに対する「eFuel」の可能性、同様に水素の可能性など、カーボンニュートラル時代におけるクルマの競争軸についてお話しされました。

九州ブロック・東北ブロック・近畿ブロック大会では、株式会社ジェイシーレソナンスの松永博司氏による講演「自動車の進化とルールの変化への対応」電子制御装置整備の過渡期におけるコンプライアンス」が行われました。松永氏は、2024年3月までで特定整備制度の経過措置期間が終わり、2024年10月からはOBD検査が始まる過渡期において、どんな

MSについて」の題目にて、BSサミット教育統合プロジェクト長である小林雅彦氏(静岡支部・株式会社カマド)との対談を行いました。首都圏ブロック大会には、株式会社プロードリーフの高田芳弘氏をお招きし「OBD検査と電子化への対応」自動車整備業のビジョン2023年版」のテーマで、中国ブロック大会には、株式会社フオーバル事業継承支援部長の山田健一氏をお招きし事業継承やM&Aについて講演頂きました。また関東甲信越ブロック大会では、帝京大学スポーツ局長長ススポーツ医学センター教授 岩出雅之氏(帝京大学ラグビー部前監督)をお招きして「常勝集団のプリンシプル 自ら学び成長する人材が育つ心のマネジメント」のテーマで記念講演をして頂きました。

九州ブロック大会にて挨拶を行う機部理事長 中自民党 参議院議員 赤池誠章先生より国政の報告を頂いた

挨拶を行う株式会社オートバックスセvensの商品・サービス統括 上久保実氏

九州ブロック・東北ブロック・近畿ブロック大会では、株式会社ジェイシーレソナンスの松永博司氏による講演「自動車の進化とルールの変化への対応」電子制御装置整備の過渡期におけるコンプライアンス」が行われました。松永氏は、2024年3月までで特定整備制度の経過措置期間が終わり、2024年10月からはOBD検査が始まる過渡期において、どんな

MSについて」の題目にて、BSサミット教育統合プロジェクト長である小林雅彦氏(静岡支部・株式会社カマド)との対談を行いました。首都圏ブロック大会には、株式会社プロードリーフの高田芳弘氏をお招きし「OBD検査と電子化への対応」自動車整備業のビジョン2023年版」のテーマで、中国ブロック大会には、株式会社フオーバル事業継承支援部長の山田健一氏をお招きし事業継承やM&Aについて講演頂きました。また関東甲信越ブロック大会では、帝京大学スポーツ局長長ススポーツ医学センター教授 岩出雅之氏(帝京大学ラグビー部前監督)をお招きして「常勝集団のプリンシプル 自ら学び成長する人材が育つ心のマネジメント」のテーマで記念講演をして頂きました。

各ブロックで勉強会・特別講演を企画

九州ブロック大会にて挨拶を行う機部理事長 中自民党 参議院議員 赤池誠章先生より国政の報告を頂いた

挨拶を行う株式会社オートバックスセvensの商品・サービス統括 上久保実氏

九州ブロック・東北ブロック・近畿ブロック大会では、株式会社ジェイシーレソナンスの松永博司氏による講演「自動車の進化とルールの変化への対応」電子制御装置整備の過渡期におけるコンプライアンス」が行われました。松永氏は、2024年3月までで特定整備制度の経過措置期間が終わり、2024年10月からはOBD検査が始まる過渡期において、どんな

MSについて」の題目にて、BSサミット教育統合プロジェクト長である小林雅彦氏(静岡支部・株式会社カマド)との対談を行いました。首都圏ブロック大会には、株式会社プロードリーフの高田芳弘氏をお招きし「OBD検査と電子化への対応」自動車整備業のビジョン2023年版」のテーマで、中国ブロック大会には、株式会社フオーバル事業継承支援部長の山田健一氏をお招きし事業継承やM&Aについて講演頂きました。また関東甲信越ブロック大会では、帝京大学スポーツ局長長ススポーツ医学センター教授 岩出雅之氏(帝京大学ラグビー部前監督)をお招きして「常勝集団のプリンシプル 自ら学び成長する人材が育つ心のマネジメント」のテーマで記念講演をして頂きました。



この数年間は新型コロナウイルス感染症の影響で、ブロック大会の開催を見合わせた。組合員のみで執り行うこともございましたが、本年は全ブロックで開催し、また東北、中部、近畿ブロックにおきましては来賓・ゲストをお招きし開催致しました。

また各会場では、それぞれ協力・協賛会社各社より、組合員に製品やサービスのご案内をして頂く時間も設けられました。

また、さらには、斉藤鉄夫国土交通大臣(公明党・衆議院議員)よりビデオメッセージを頂いた。安全な自動車の車体を確保する議員連盟から自民党 参議院議員の赤池誠章先生にお越しいた

だき国政についてご報告を頂いたり、非常に内容の濃い会合となりました。

九州ブロック大会にて挨拶を行う機部理事長 中自民党 参議院議員 赤池誠章先生より国政の報告を頂いた

挨拶を行う株式会社オートバックスセvensの商品・サービス統括 上久保実氏

九州ブロック・東北ブロック・近畿ブロック大会では、株式会社ジェイシーレソナンスの松永博司氏による講演「自動車の進化とルールの変化への対応」電子制御装置整備の過渡期におけるコンプライアンス」が行われました。松永氏は、2024年3月までで特定整備制度の経過措置期間が終わり、2024年10月からはOBD検査が始まる過渡期において、どんな

MSについて」の題目にて、BSサミット教育統合プロジェクト長である小林雅彦氏(静岡支部・株式会社カマド)との対談を行いました。首都圏ブロック大会には、株式会社プロードリーフの高田芳弘氏をお招きし「OBD検査と電子化への対応」自動車整備業のビジョン2023年版」のテーマで、中国ブロック大会には、株式会社フオーバル事業継承支援部長の山田健一氏をお招きし事業継承やM&Aについて講演頂きました。また関東甲信越ブロック大会では、帝京大学スポーツ局長長ススポーツ医学センター教授 岩出雅之氏(帝京大学ラグビー部前監督)をお招きして「常勝集団のプリンシプル 自ら学び成長する人材が育つ心のマネジメント」のテーマで記念講演をして頂きました。

BP経営マネジメントシステム

お問い合わせは下記へ

全国販売・保守サポート承ります!!

コグニフで作成した見積書をベースに『工程管理』、『作業状況管理』、『売上粗利管理』、『担当者別売上管理』が実現します

【代車状況一覧画面】

【作業状況一覧画面】

【担当者作業状況画面】

Emotional Business Enhancer
EBE inc. 株式会社 EBE (イーバ)

東京都千代田区神田淡路町2-23-1 お茶の水センタービル4F
TEL:03-5298-1851 / FAX:03-5298-1852
http://www.e-b-e.co.jp/

全日本高速道路レッカー事業協同組合の技術研修会に出席

ロードサービス委員会 活動報告



2023年10月11日、福岡県北九州市小倉北区の西日本総合展示場を会場に、全日本高速道路レッカー事業協同組合（JHR）の「技術研修全国大会2023 in 九州・沖縄」が開催されました。BSサミット事業協同組合からは、ロードサービス委員会の森松和博委員長（【福岡支部】株式会社トータルカーサービスジャパン久留米支店）と中川恒男委員（【愛媛・高知支部】株式会社中川自動車商会）が参加し、ロードサービスに関わる皆様と積極的に情報交流を行いました。

研修会は午前9時からスタート。大型車メーカー・輸入車メーカー・EVバス販売会社・アシスタンス会社・協力会社の紹介から始まり、午後4

時まで全部で9コマの座学研修が行われました。研修のプログラムは、

1. いすゞ自動車九州「EV車の構造と安全面について」
2. 九州日野自動車「電気自動車 レスキュー時の取り扱いについて」
3. 三菱ふそうトラック・バス 九州ふそう「新型eCantierの概要と注意点」
4. スカニアジャパン「レッキングや落輪引き上げ等作業時の注意点」
5. EVモーターズジャパン「EVバスのレッカー作業について」
6. タダノ「ラフテレーンクレーンのレッカー移動時の注意点」
7. パルコムモーターズ「ハーレーダビッドソンに関する講習」
8. オリジン「可搬型V2V充電装置 POCHA の救援デモンストラーション」
9. フォルクスワーゲン グループ ジャパン「レスキューサービスガイドライン」と、EVトラック・EVバス・EV車のレスキュー時の対応方法など、特に大型トラックを得意とするJHRの組合員にとっては必須の研修であり、参加者は真剣に聴き入っており、休憩時間になると担当者を質問攻めにする熱心な姿が見られました。

ホテルに場所を移しての懇親パーティーでは提携アシスタンス会社の役員の皆様へ、日頃の組合員へのご配慮、伸び続ける受注への御礼を申し上げながら、燃油サーチャージの実施や深夜時間帯の料金体系の再考をお願いするなど、とても有意義な機会となりました。

JHRは本年より、加藤紀明新理事長（静岡県：（株）加藤オート・リペア）を筆頭に、新体制で教育・研修に取り組まれるとのことです。BSサミットとしても、自動車救護士の資格取得支援などを行っており、今後も友好団体として協力関係を築いて参る所存です。



開会の挨拶をする加藤理事長

技術研修動画「電子制御装置の作業について」を配信開始

①自動車メーカー別作業の基本
本研修では、まず前回の研修後に寄せられた質問内容に対して、講師の上松氏から回答を頂きました。続いて一つのテーマ「自動車メーカー別作業の基本」では、前方エーミング作業時のターゲット設置手順は、①車両のセンターラインを使用（トヨタ、マツダ、ダイハツ、スズキ）、②車両ホイールセンターからの平行線を使用（日産、三

次世代自動車研究委員会（熊本匡史委員長）は、次世代自動車修理の知識習得に繋げる狙いで「電子制御装置の作業について」と題した研修動画を作成しました。第4回目となる今回は、①自動車メーカー別作業の基本、②ADAS機器の仕組み、③汎用サポート機材の精度、の3項目に分けて研修を進めており、その目的は「コンプライアンス遵守と正しい修理の未来」を掲げています。

研修には千葉支部/株式会社車検・钣金デポの上松禎知代表取締役を講師に迎え、次世代自動車研究委員である香川・徳島支部/浦車体整備工場有限会社 浦彰彦代表取締役、埼玉支部/株式会社ファミリーモーターズの岩松祐介代表取締役にお越し頂き、約1時間半（6本に分割）に渡る研修の模様を動画収録いたしました。



【質問4】ミリ波レーダーの高さ設定についての質問です。従来の「中心がエンブレム」ではない車について、バンパーがついた状態で正確に測定する方法を教えてください。



右上：講師を務めた【千葉支部】株式会社車検・钣金デポ 代表取締役 上松禎知氏、右下：【千葉支部・次世代自動車研究委員長】株式会社初石钣金 代表取締役 熊本匡史氏、左上：【香川・徳島支部、次世代自動車研究委員】浦車体整備工場有限会社 代表取締役 浦彰彦氏、左下：【埼玉支部】株式会社ファミリーモーターズ 代表取締役 岩松祐介氏

②ADAS機器の仕組み
二つ目のテーマ「ADAS機器の仕組み」というテーマでは、ミリ波エーミングの基本となる「再帰性反射」とフロントカメラエーミングの基本である「車両状態に関係なく、カメラ用ターゲットの高さは変更しない」という説明を行いました。その説明の中で上松氏は国土交通省が公表している「乗用車等の衝突被害軽減ブレーキに関する保安基準（概要）」の資料を参考に「身長115cmの児童を認識できる」という基準に基づいて考えられているので、車両の状態によってターゲットの高さは変わらぬ」と説明されました。この基本を知っていることで「エーミング作業時に車載カメラの高さ入力がある場合は、整備要領書の参考値を利用するのではなく、車載カメラの高さを計測し入力することで、様々な車両状態に対応が可能になる」と実践的な重要性について述べられました。

③汎用サポート機材の精度
三つ目のテーマ「汎用サポート機材の精度」では、実際に幾つかのターゲットを比較した映像を見ることで、メーカー毎同じように見えてその精度には差があることや、それらの知見を深めることで高い精度と時間の短縮につながることを示されました。特に汎用サポート機材では、理論を理解して作っているメーカーと理論を知らずに見様見真似で作っているメーカーが混在しているので注意が必要だと呼び掛けました。

さらに上松氏は「金属スタンドを使用したミリ波ターゲットでは、スタンドの金属部分が必要となりミリ波の乱反射が発生し診断機使用時の数値が不正確になるケースがあります。ミリ波が許容範囲に入っているものであれば関係ないですが、我々は事故車の修理をする訳ですからそうでない可能性は十分にありませう」とミリ波の乱反射には注意するべきだと警鐘を鳴らします。

上松氏は動画研修を通じて「ADAS機器にはNCAPという基準があり、その基準は年々厳しくなっています。各自動車メーカーがその基準に対応することは、自動車の安全性が高まることに繋がります。一方で、車両の高度化が進むことで修理が難しくなることにもつながります。BSサミット組合員として「高品質のモビリティサービス」を提供するため、常に進化し続けなければなりません」と、継続して勉強していくことの重要性について述べられました。

次世代自動車研究委員会 活動報告

報にも触れました。

問1 次の空欄を埋めて式を完成させよ。

CO₂の少ない移動 = スマス × パートナー × モビリティ

サステナブルな社会。それはお客さま、パートナーとともに描く未来です。

体制改革後初となる「人材教育・人事評価制度についての勉強会」を開催



先の全国大会で二世会の若松伸一会長から発表があった通り、今年度より二世会は4つのテーマ毎に小委員会を作り、より具体的な研修・勉強会をオンライン・リアルを交えて開催できるよう体制へと運営方法の変更が行われています。

今回の変更により二世会のメンバーは4つのグループへ組み分けられ、それぞれのグループにテーマが与えられました。グループ毎のテーマはそれぞれ、A・次世代モビリティ関連、B・OBD検査、C・技術関係・工具、D・財務採用教育(人材開発)です。これまでは二世会の企画委員のメンバーが中心となり様々な研修・勉強会を開催してきましたが、今後は各グループのメンバーが中心となりそのサポートを企画委員のメンバーが行うような構成になるということです。磯部副会長は「みんなに参加意識を持ってもらうことで二世会の活動を活性化させたい」とその目的について話してくれました。すでにグループ毎のミーティングを重ねており、今回の教育をテーマにした勉強会を皮切りに順次開催を目指しています。

若松会長は「BSサミットは今年新たなステージに立ちます。それに伴い二世会も変わるべきだと感じております。もはや組織についていく存在ではなく、組織をリードするような企業に成長していかなければなりません。その意識を持って、業界の最先端の動き・情報を学ぶ場を創出して欲しいですし、そのサポートをしたい」と期待を述べられました。

2023年11月21日(火)、千葉県松戸市の株式会社ミック(千葉支部・池田定治代表取締役)にて、二世会「人材教育・人事評価制度」についての勉強会を開催しました。会場となった株式会社ミックは大手車検チェーン「車検のコバック」店舗を千葉県内に8店舗、さらには鍍金塗装工場や未使用軽自動車専門店などを経営する企業で、元々自身もBSサミットの二世会に入っていたというところで、自社の人事制度について教えて頂きたいというオファーに快諾いただきました。今回の勉強会の取り纏め役をされた山本卓也氏(愛知支部、旭自動車株式会社)に今回の勉強会の目的についてお話を伺うと「新しい人材の確保が難しい状況の中、今いるスタッフの定着が重要になってきます。そのためには人材の教育制度を確立することや人事制度を再考し透明性のある会社経営について学ぶ必要があるのではと考え企画致しました」と話します。



冒頭、挨拶を行う若松二世会会長

勉強会の講師を務めるのは、株式会社ミック代表取締役社長 池田定治氏、採用・人事を担当する副社長 池田高之氏、そして一緒に制度を作ってきた船井総研の熊谷氏の3名です。まずは同社の会社案内を社長からして頂き、その後二世会メンバーから今回の勉強会で聞きたいこと(質疑)を取り纏めたのち、副社長の池田高之氏から同社の取り組みについてご説明を頂きました。副社長は「そもそも人事評価制度の目的は、経営目標の達成・会社ビジョンの実現を行う人財の育成」であり、評価制度を導入することが人材育成に結び付き、自社の強



参加者は真剣な面持ちで聞き入っていた



勉強会後には工場視察も行われた



株式会社ミック代表取締役社長 池田定治氏

株式会社が夢を見て飛び込んでくる業界ではありません。入ってきた人を育て、定着させないと事業継続が難しい」と、今の時代は特に人材育成や人事評価が重要だとおっしゃいます。

話は核心へと進み、株式会社ミックではどのような取り組みを行っているのかについて明かして頂きました。同社では1~7までの等級制度があり、それぞれの要件を満たすことで等級が上がっていくシステムだと言います。また社員の給料は、年齢給と等級によって変わる職能給、それから役職手当や資格手当など非常に細かい要素が組み合わさって決まるようになっていきます。さらに直接の上司だけの評価にならないように、評価会議を行ったり、上司が部下と評価に対する面談を行ったりと、微に入り細を穿つ内容になっています。

参加者からの質問が絶えずに時間いっぱいとなったため、工場視察を行ったあと、帰りのバスの道中においても質疑応答の続きが行われるほど白熱した勉強会となりました。参加者からは「以前にも人材育成・人事評価に関する研修を受けたこともあったが、今回の方が自社に取り入れやすいような内容だった」、「等級や役職など自社の人事に取り入れたい内容が聞けた」と好評の声が届いています。二世会では今後も様々な研修・勉強会を企画し実践していくことで、組織をリードするような企業に成長してまいります。



会場となった株式会社ミック本社



副社長で人事担当の池田高之氏

ニケーションが活発になった。その結果、会社全体として取り組んだ公式LINE Eのお友達登録では、若い社員がベテラン社員を牽引する形で数ヶ月で8000件を超える登録を達した」と、評価制度の成果に触れました。一方で「次の世代へバトンタッチしていくためには、管理者のポストから外さざる得ないケースも将来的にはあり得るので、その時の評価などは課題として認識している」と評価制度の運用の難しさについても触られました。

BSサミット事業協同組合

冬季クレジット&オートリースキャンペーン

キャンペーン期間 2023年12月1日 ~ 2024年1月31日

期間中、BSクレジット・オートリースを5万円以上ご利用いただいた方全員に「やさしいごちそう」3,000円相当をプレゼント!

「やさしいごちそう」は地域の名産品や人気スイーツまで自由に選べるチョイスグルメギフトです。

この機会にぜひBSクレジット・オートリースをご利用ください

【主催】 **BSサミット** 【協賛】 **Orico**

手元資金にゆとりを生み出し、ビジネスを加速! OBSオリコの請求書カード払いのご紹介

OBS Orico Business payment for SME **オリコの請求書カード払い**

- POINT 1 銀行振込の請求書をカードでお支払い可能!
- POINT 2 借入せずに最大約60日間支払い延長! お客様名義で振込代行!
- POINT 3 利用登録は簡単・無料!

【ご利用可能ブランド】 Mastercard/Visa/JCBブランドが搭載されたカード ※JCBブランドで発行されたプリペイドカードを除く

手数料はカード決済額の3.0%(税別)

パソコン・スマートフォンからお申し込みできます。 <https://orico.jp/obs>

商品紹介動画はこちらから確認できます。

BSサミット事業協同組合 九州ブロックとして「オートアフターマーケット九州 2023」に出展 小林教育統合プロジェクト長がプレゼンテーションを実施



2023年11月11日(土)・12日(日)に、福岡県福岡市のマリンメッセ福岡で開催された「オートアフターマーケット九州 2023」にBSサミット事業協同組合 九州ブロックとして組合員拡充を目的に出展しました。さらに出展者プレゼンテーションには小林雅彦教育統合プロジェクト長(静岡支部・株式会社カマド)が登場し、「時代の先端を行くモビリティサービスを追求するBSサミット」というテーマで組合員拡充を目的としたプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションの冒頭では藤野副理事長より「BSサミット」という車体整備の団体というイメージが強いと思いますが、1月の賀詞交歓会で発表した通りBSサミットは車体整備からモビリティサービスへ大きく軌道修正を行うという事で、本日のような場を設けました。今までのように車体整備を中心に行う事業者だけでなく、広く整備事業を展開されている皆様にも加わって頂きたいと考



大勢の聴講者が会場を訪れた

えております。そこには我々としての大きな戦略があり、自動車メーカーと直接提携ができるような仕組みに変えていくと動いております。自動車メーカーにおいても、系列ディーラーだけではなく、全ての自社のクルマに対応することが難しいと認識されており、BSサミットに具体的な提携の相談を頂いております。我々も生き残りをかけて新しい展開を進めようとしております。短い時間ではございますが是非我々の話を聞いてみてください」と、BSサミットの進む方向性について説明がありました。



冒頭挨拶を行う藤野副理事長

藤野副理事長の挨拶に続き、小林プロジェクト長より「今年BSサミットへの加盟をお誘いするのかが、テーマとしたプレゼンテーションが行われました。小林プロジェクト長は、BSサミットの描く未来について、お客様と損害保険会社としてBSサミット組合員工場の三者間利益を追求するDRP(ダイレクト・リペア・プログラム)の再構築と、お客様と自動車メーカーとBSサミット組合員工場の三者間利益を追求するDMS(ダイレクト・メンテナンス・ソリューション)の

構築を確立することだと言明しました。そして既に、国内外複数の自動車メーカーから提携の打診があり決して夢物語ではないことを伝えます。そのうえで自動車メーカーと提携することのメリットについて、テスラの認定工場となった自社の経験も交えて、①次世代自動車整備に関するメーラー教育の受講、②ディーラー同等の純正スキャンツールの手入、この2点を挙げて説明を行いました。



最後に小林プロジェクト長は、「私自身も皆さんと繋がって色々な情報を伺いたいのです。このような時勢ですから知恵は多いに越したことはありません。そこからアイデアが生まれ答えに繋がるのだと思うと思います。もちろん答えは一つではありません。都市部、過疎地域、中山間地など立地条件や競合他社など外的要因によって変わってきます。BSサミットは10年後の自社の活動領域が顧客ニーズをすべて満たすイメージを持つように今後も活動を続けてまいります。数ある団体の中で唯一BSサミットだけが、3年後のために何をしておくべきかについて情報提供をしています。最後は、経営者の決心が必要になりますので、宜しくお願い致します」と、具体的なアクションを起こすことの大切さについて述べてプレゼンテーションを締め括りました。

ジャパンモビリティショー開催 自動車の枠を超えた「モビリティ」全体の未来を考える

日本自動車工業会が主催する「JAPAN MOBILITY SHOW 2023(以下JMS)」が10月26日(木)から11月5日(日)まで、東京ビッグサイト全館(江東区・有明)で開催されました。東京モーターショーから名前を変え4年ぶりの開催となったJMSでは「みんなで一緒に未来を考える場」をショーコンセプトに、自動車の枠を超えた「モビリティ」全体の未来を考える場として開催されました。参加企業は過去最大の475社、来場者数は延べ111万人と100万人を大きく超える結果となりました。

モーターショーからモビリティショーへと名称を変え最初の開催となった本会の印象としては、「未来」や「モビリティ」の定義に各メーカーで差があることが印象的でした。

EVのコンセプトカーを並べるメーカーがあるかと思えば、クルマだけでなく空のモビリティやラストワンマイルを叶えるマイクロモビリティなどを並べるメーカーもあるなど、多種多様な展示のコンセプトが見られました。これは非常に興味深いことで、我々自動車アフターマーケットの事業者も頭を「クルマからモビリティへ」と思考を切り替える必要があるのではないかと考えさせられます。磯部理事長が日頃話される「空飛ぶクルマも直せる自動車修理団体を目指す」というものがいよいよ現実味を帯びてきたことを感じられる展示となっていたことに、身の引き締まる思いでした。

また、钣金塗装の観点から見ると、レクサスブースに展示されてい

業界動向ニュース

た「ギガキャスト」は事故車の修理に大きな影響を与えるものとして注視が必要だと感じました。ギガキャストは自動車の車体部品などを一体成形する技術で、部品点数や製造工程を大幅に削減できる鋳造技術のことです。トヨタは次世代EVで、車体をフロント、センター、リアに3分割した新モジュール構造「ギガキャスト」を採用する方針を示しています。さらには、ADASの進化も著しいものがあり今後は益々高精度な車体整備や電子制御装置整備が重要になることが想像できますし、他方では事故は益々減少を続けることが予想されます。

クルマが大きく変わるこの時代に自動車アフターサービスの事業者が

どのような生き残りの道を探るのか、いよいよ待ったなしの状況になってきたと強く感じる内容でした。



▲カメラやセンサーなどADASも進化を続ける



スズキやホンダは幅広くモビリティを意識した展示を行っていた



レクサスブースに展示されていたギガキャストボディ



溶接 D.Cインバータースポット溶接機 SW-VZ120

充電 各種バッテリー完全対応充電器 BR-MAX70IS

フロン 全自動フロンガス回収機 CS-YF134WS(2タンク型)

Brain Max. アイドリフトストップ MF/シールド、標準地

HighRate

「明日をひらく」デンゲンの技術

DENGEN

3M Science. Applied to Life.™

3M™ パフォーマンススプレーガン

さらなる塗装の進化を
その手で体感。

- 業界最軽量クラス
- 洗浄時間の短縮
- 精密な塗装性能
- サイクルタイムの改善

交換可能なノズルと3M™ PPS™ シリーズ2.0 塗装用カップシステムとの組み合わせでより洗淨された塗装システムをご提案します。

スリーエム ジャパン株式会社 カスタマー コールセンター 0570-011-211

3M、PPSは、3M社の商標です。

新世代アイサイトの登場 クロストレックより実装

2008年に世界で初めてカメラによる衝突被害軽減ブレーキなどを実装するADASとして搭載されたSUBARUのアイサイトは、その後改良を重ねられバージョンアップが続いています。Ver.1からVer.3を経て、近年搭載が進むアイサイトXはハンドルから手を放して運転が行える「渋滞時ハンズオフアシスト機能」などを実装するなど、アイサイトは常に先進安全運転の最前線を切り開いてきました。そのアイサイトがさらに改良を重ねたバージョンを発表、2022年12月に発売したクロストレックより搭載が始まっています。



XVから改称して発売されたクロストレック。
出典：株式会社SUBARU

単眼カメラを増設 センサー数が増加

に加え、広角の単眼カメラをそれぞれ用いた合計3眼による、システムに変更されました。これにより従来のアイサイトよりもさらに広角な視認を行うとともに、交差点など複雑な走行シーンでの認識性能を高め、安全性能はさらに向上しています。なお、新世代アイサイトはクロストレック以降に発売された新型インプレッサ(GU系)をはじめ、改良型のレヴォーグ(レイバック含む)、レガシィアウトバック、WRX-S4に搭載され、普及が進んでいます。



ステレオカメラ(両端の円)と単眼カメラ(中央の円)を用いた新アイサイト。
出典：株式会社SUBARU

また、従来のアイサイトXから初めて採用されたレーダーは前側方と後側方警戒システムのそれぞれにセンサーが装備され、監視範囲を拡大しました。センサーの数が飛躍的に増えるとともに、車体整備を行う上での制約も増加していることから、システムの理解と技術対応がますます求められています。



各センサーの認識範囲イメージ。
出典：株式会社SUBARU

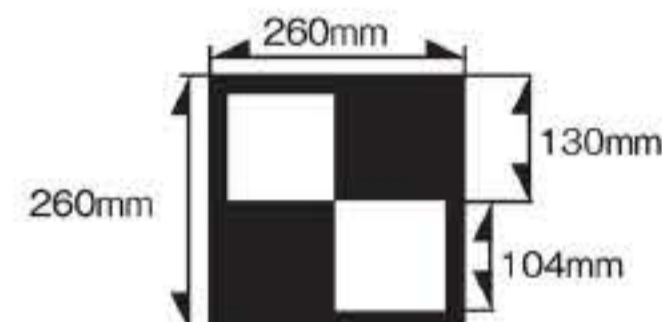
2種類のカメラの エーミングを実施

アイサイトのADASはバージョン毎に整備の方法、用いる整備機器(SST)が異なりますが、新世代アイサイトにおいては前方センシングを行うカメラが2つになるため、電子制御装置整備の調整(エーミング)・検査の方法に変更があります。

まず、ステレオカメラについてはアイサイトVer.3以降で実施するエーミング及び検査に大きな違いはありません。使用するランダムチャートもVer.3で用いる87599VA000です。一方、新世代アイサイトから装備された広角単眼カメラの調整・検査では従来SUBARU車で実施してきた方法とは異なる整備と設備が求められます。

従来とは異なる 広角単眼レンズの調整

広角単眼カメラの調整では以下で示したターゲットチャートを3枚準備し、トヨタ車のエーミング作業で実施する一括認識に似た準備を行います。車両のセンター出しを行うとともに、前輪中心から側線を引いてターゲットチャート設置点をマーキングする点はトヨタの方法とは異なっています。ターゲットチャートとクルマがしっかり正対するために必要な作業ですので、整備要領書に忠実な作業が求められます。なお、広角単眼カメラでは従来のステレオカメラの調整・点検で求められる走行による自動調整、点検は必要ありません。新世代アイサイトの車体整備では2つのカメラの調整作業が求められることから、見積もりや作業について不備がないよう注意する必要があります。



広角単眼レンズのエーミングに用いるターゲットチャート。

前後の側方監視システム バンパー補修の留意点

アイサイトXより搭載が進むレーダーセンサーによる側方監視、警戒機能も着々と搭載車が増加しています。前側方、及び後側方を走行する車両認識を行い、その状況をステレオカメラに送信する役割を担います。センサーは前後各バンパーの内側に装備され、取り外しや交換後は調整及び点検が必要です。調整においては縦横各9m程度の広い作業場が求められ、それぞれのコーナーリフレクターが必要です。

なお、側方レーダー搭載車には前後バンパーに修理禁止エリアが設けられており、バンパー表面および裏面は塗装を行うことができません。修理禁止エリア内のバンパーに、塗装不良がある場合は修理をせず、バンパーの交換を行います。また、新品未塗装品へ塗装する場合は、整備要領書に記載されたトップコート塗装の膜厚で塗装しなければなりません。塗膜が厚くなりすぎると、側方レーダーが正常に作動なくなる恐れがあります。



黄色で示した部分がリアバンパーの修理禁止エリア(イメージ)。
出典：株式会社SUBARU

新発売

OBID専用スキャンツール

一般社団法人日本自動車機械工具協会 型式試験番号取得 型式試験番号 JASEA-KS-12

OBID検査専用スキャンツール IS-J2534

- 付属品
- ・ドライバ(本体内蔵型/無料)
 - ・クイックスタートガイド
 - ・専用ケーブル(Micro-B/Type-A)
 - ・専用ケース



OBID検査対象車種



使用例: 車両側
車両側: 本体直接接続
PC側: USB(Type-A)接続

車両に直接接続



PCまたはタブレット



本スキャンツールには、整備用スキャンツールとしての機能はありません。

月別リサイクルパーツ別実績 2023年9月～2023年10月(全国)

※その他＝エンジン・ミッション・ラジエター・コンデ
ンサー・コンプレッサ・フロントガラス等のリサイク
ルパーツ(新設パーツは除く)

内 訳	2023年		合 計
	9月	10月	
	数 量	数 量	数 量
フロントバンパー	308	300	608
リヤバンパー	186	196	382
ヘッドライト	423	440	863
ボンネット	142	145	287
フェンダー	318	317	635
ドア	533	470	1,003
トランクリッド・リヤゲート	152	152	304
テールランプ	278	273	551
その他※	2,378	2,293	4,671
合計	4,718	4,586	9,304

BSサミット 販売促進委員会

リサイクルパーツ普及拡大に向けて 使用済み自動車発生台数に回復の兆し

事故車修理時のコスト低減は、損害保険会社やユーザーにとっても、ますますニーズが高まっております。BSサミットでは、環境負荷低減とともに、こうしたコスト削減に寄与することを目的として、販売促進委員会を中心とし、自動車補修部品のリサイクル促進を進めています。今後とも積極的なリサイクルパーツの活用をよろしくお祈いします。

中古部品の生産に必要な不可欠な使用済み自動車の発生台数が回復傾向にあると、自動車リサイクル促進センターが公表しました。使用済み車の月間発生台数は、新車供給遅れなどを原因に21年10月から前年同月比マイナスに転じ、23年1月には月別統計を開始して以来、初めて20万台を下回る深刻な状況に陥ってしました。しかしここに来て新車の販売も回復してきた影響もあり、使用済み車の発生台数が約2年ぶりにプラスに転じているとのことです。リサイクルパーツの普及拡大には、当然リサイクルパーツの供給の安定が欠かせません。自動車アフターマーケットに関わる業界全体が一丸となって「循環型社会」を目指しましょう。

ストップ! 粗悪修理!!

「ストップ粗悪修理」は、次世代自動車研究委員会や広報委員会を中心に収集している他社工場での粗悪修理情報を、BSサミットニュースやカーケアプラスなどのメディアを通じて公開しております。不具合車両の撲滅とユーザーへ安心と安全を提供すべく、本来あってはならない修理不具合・不正修理の現状・実態を明らかにし、適切な修理を行うことの重要性を呼びかけております。今後とも主旨をご理解いただき「修理不具合情報」のご提供をよろしくお願いいたします。

不完全修理例① 無理やりパネルを取り付けた為、バックパネルが曲げられたまま溶接

追突事故の被害車両として入庫した車両。左側の写真は損傷部位を修理せず黒いシートを貼り解らないように偽装してあった。写真右側は前回の事故でパネルを取り替えているが、無理やりパネルを取り付けた為、バックパネルが曲げられたまま溶接されている。バンパーやスペアタイヤを外さないと見えにくい部分だからといって、誤魔化して修理したと思われる。この様な修理のままでは事故の際、衝撃吸収がされず乗員に過大な被害が発生すると思われる。ユーザーに対して安心・安全な修理を提供する事は最も大切な事であると再認識して戴きたい。



不完全修理例② エアバッグハーネスの結合部に手加えられており、不完全な状態で修理

写真では解りにくいですが、エアバッグハーネスの結合部に手加えられており、不完全な状態で修理されている。この状態のまま経過すると、万一事故の際にエアバッグが展開しない場合や、予兆もなく突然展開する可能性がある。断線等の不具合が発生すればチェックランプが点灯するとは思われるが、乗員の命を守るエアバッグが事故の際、展開しないとはユーザーは想像できない。このような電装修理の安易で不適切な修理は、重大事故を招くことがある為、修理業者は注意すべきと考える。ユーザーに対して安心・安全な修理を提供する事は、最も大切な事であると再認識して戴きたい。



この様な不具合車両をなくすために、皆様からの情報提供をお待ちしております。

「カーボンニュートラル」「SDGs」
何から始めたらいいか、お困りではありませんか?

カーボンニュートラル・SDGs への 取組み支援サービス開始

リユース部品を利用した修理のCO₂削減量をご提供!

自動車整備工場様

リユース部品の積極的な活用

リユース部品 CO₂ ↓

環境貢献書

自動車リサイクル部品 環境貢献書

リユース部品活用に伴う CO₂ 削減量

貢献書とデータを
お手元に!

+

csv/
Excel

NGPグループ以外から購入したリユース部品でも算出できます。
自社の環境貢献をリユース部品を使ってお客様にPRしてみませんか。

2030年目標 使用済自動車約1,000万台から2,000万台以上の自動車リユース部品の生産と適正なリサイクル処理を推進し、50万トン以上のCO₂削減に貢献します。

SDGs宣言 人と車と地球にやさしく自動車リサイクル事業を通して、子どもたちと地球の未来を考えます。

NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合 / 株式会社 NGP
〒108-0074 東京都港区高輪 3-25-33 高輪ビル 2 階 TEL:03-5475-1208

さらなるCS向上へ向けた
リサイクルパーツの提案。

Repairs Direct System

リサイクルパーツ発注システム
リパーツダイレクトシステム (RDS)

皆様が、安心して「リパーツダイレクトシステム」をご利用いただけるよう「BSネットワークコールセンター」の専任スタッフがお客様のご発注いただいたパーツの適合確認をさせていただきます。正確な部品発注をサポートしております。

自動車リサイクル部品のお問い合わせは

BSネットワークコールセンター

Tel.052-441-7503 (平日9:00~18:00) Fax.052-441-7628

私たちは自動車リサイクル部品の活用で
未来の地球を考えています。

Recycle & Repair BIG WAVE JARA

株式会社ビッグウェーブ・株式会社 JARA は連携し合い常に最良品質の自動車リサイクル部品の生産と販売に取り組んでいます。

続ける覚悟！4年の年月をかけて人がやめない工場作りを実践

組合員訪問

九州ブロック 宮崎支部 有限会社藤元自動車工場

地域の同業者からも頼りにされる整備工場

今回ご紹介する有限会社藤元自動車工場は、宮崎県宮崎市の北部「芳土」という地で鉄金・塗装、車検・整備、新車・中古車販売、保険代理店、ロードサービスなどを幅広くモビリティサービスを行っている。同社は今年40年以上前、現在の代表取締役藤元友和氏の父親が鉄金塗装工場として設立。その後、車検、車販と徐々に取扱サービスを広げていき、15年前に現社長へ代替りを果たし、現在は社員30名を抱える宮崎県屈指の工場となった同社



藤元友和代表取締役 一木俊郎専務取締役



新工場設立、人がやめない工場作り

藤元自動車工場は今年7月、古くなった工場に向かい新工場を建設いたしました。「元々駐車場として借りていた土地を買い上げ、建物を建てるために奔走し、4年の年月を掛けてようやく建った。こんな苦労するならやめようかと何度も考えた」と、その苦難の思いを明かしてくれました。

従業員の働きやすさを考えて作られた新工場



「続ける覚悟を決めた」次世代に向けた取り組み。同社としては、次世代への対応を真剣に考えていかねばならず、電子制御装置の整備や「OBD検査」への対応が挙げられます。藤元社長は「基本的な考えとしては全てに対応したい」とおっしゃられ、その為に新工場では床面を平滑に整え、輸入車にも対応できるように診断機やターゲットセットを導入しているといいます。そしてまた別の観点からは、ISO14001認証取得やSDGs宣言など企業として地域社会と共存していく活動も行

フロントに置かれた様々なプレート

DRPとロードサービスを求めてBSサミット入会

同社がBSサミットに入会したのは平成12年、先代が親戚の光自動車(当時の組合員工場、現在は廃業)の紹介により入会を果たしました。ディーラーからの入庫を求め、BSサミットの指定協力整備工場となったことです。オンラインで

ヒョンデの指定協力整備工場に

新工場を建設したことで早くも新たな展開がスタートしました。それが昨年2月にZEV (Zero Emission Vehicle) を引っ掛けて日本に再上陸したHyundai Mobility Japan 株式会社との指定協力整備工場となったこと。オンラインで

ヒョンデオナーが安心してクルマに乗れることに貢献しています。

「技術や設備はもろいんですが、求められたことに柔軟に 대응していく対応力も強みだと考えています。EVに注力することは考えていませんが、知見を深めることも重要だと考えチャレンジを決めました」と藤元社長は話します。



自動車の進化に伴う様々な法改正。自動車運転やADASをはじめとした先進技術の実用化に向けて、政府主導で自動運転技術や運転支援技術の普及が進められています。2024年からのOBD車検開始に向けたこの期間は、まさに100年に一度の大変革期といえ、整備事業者にも求められるハードルは益々上がります。BSサミットは、日本の車体整備業界のリーディング組織として、時代の潮流を読み取り様々な難局を乗り越えるべく、常に先を見据え取り組みを行っております。

2018	4月 登録車OSS利用開始
2019	5月 軽OSS利用開始
2020	4月 改正道路運送車両法施行 電子制御装置整備認定開始 特定整備の経過措置の開始
2021	4月 特定化学物質障害予防規則等改正 10月 新点検基準施行 11月 国産車自動ブレーキ義務化 OBD車検プレテスト開始
2022	4月 零接ヒューム濃度測定等 5月 後退時車両直後確認装置 新車検整備義務化
2023	1月 検査証の電子化 10月 インボイス制度開始
2024	3月 特定整備の経過措置期間の終了 7月 輸入車自動ブレーキ義務化 10月 OBD車検 運用開始
2025	10月 輸入車のOBD車検開始 (2022年10月1日以降の新車車検対象) 12月 継続生産車 自動ブレーキ義務化 ※継続生産車と併発義務化の時点で 販売されている車
2027	9月 軽トラック 自動ブレーキ 義務化

BSサミット事業協同組合
TEL:03-3538-2900 E-mail: honbu@bs-summit.co.jp
http://www.bs-summit.jp